

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

※ 注意：当科での卒後研修は 2年研修(一般歯科・口腔外科基礎養成コース)です。1ケ年カリキュラムはありません。2年間続けられる方のみ応募してください。また麻酔・救命救急・形成外科研修は必須（麻酔、救命救急は当直研修あり）です。当科副宅直も必須です。

1 プログラムの目的と特徴

当科の特徴：大学病院歯科口腔外科であることから口腔外科疾患の他、入院患者さんおよび有病者の歯科治療（1日外来受診者数：平均 99.9人;平成 27年度）も多く手がけている。当科の研修期間は2年であり、2年間でカリキュラムを修める。

- * 口腔外科では多様な疾患を経験できる特徴がある。外来での口腔外科では埋伏歯、小嚢胞、歯根端切除、小帯切除、インプラント（先進医療を取得）などの手術や顎関節症に対する関節洗浄療法が年間約 1200 例行われている。入院では外傷、炎症、腫瘍（CTL療法は先進医療を取得）、顎変形症、口唇・口蓋裂、インプラントなどの入院手術件数が年間約 250 例ある。インプラントはブローネマルクシステムインプラントを用いており、年間約 200 本の埋入を外来または入院下（骨移植・上顎洞挙上術・化骨延長法併用）で行っている。
- * 当科は日本口腔外科学会研修認定施設、日本顎顔面インプラント学会研修認定施設となっている。
- * 歯科治療は有病者の歯科治療を行っており、また睡眠時無呼吸症候群に対する PMA 治療や顎関節症のスプリント治療も多く行われる。よって、一般歯科治療の技量と幅広い歯科関連知識の修得の他に全身状態の把握に要する医科知識と状況に応じた対処法の修得が重要である。そのため当科研修医は歯科研修プログラムの他に医科研修医が出席する講義（毎週開催）の出席が必須であり、ここで医科臨床の知識を身につけることになる。さらに研修 2年時には歯科麻酔研修（20例）の後、医科麻酔研修3ヶ月、さらに ICU 研修 1ヶ月が必須研修としてある。また、2年目に2週間、形成外科での研修を必須としている。
なお、大学院希望者は試験後に大学院へ入学することが可能である。

目的：全身的観点から口腔疾患の診断及び治療に関する知識と技術を実地に体得し、医倫理を修めることを目的とする。実施方針については、以下のとおりである。

- (1) 歯科口腔外科臨床研修は、指導責任者（口腔外科指導医 2名、一般歯科指導医 4名を含む助教以上）のもとに、全身的病態との関連や治療時の必要知識と治療方針及び実際の治療時の留意点を修得するようにする。

- (2) 一般的な歯科疾患および小口腔外科疾患の診断,治療計画の立案及び実際の治療の修得(一般歯科診療では担当医となる)を目指す。
- (3) 関連する他科疾患の診断については,他科との対診及び連携を密にして研修成果をあげるようにする。実地に際しては,先の指導責任者及び助教以上の医師が実際の指導にあたるが,国家免許をもった1人の歯科医師としての自覚を持ち,積極的に勉強し,自ら考え,他の歯科医師や医師と討議,連携し,多面的観点から患者及び病態を見て,適切な治療方針及び治療が行えるよう努めること。

2 研修教育指導責任者と指導医名

(1) 指導責任者

風岡宜暁(教授、(社)日本口腔外科学会認定専門医・指導医、一般歯科養成指導医、日本がん認定機構暫定教育医(歯科口腔外科)、日本顎顔面インプラント学会指導医、日本口腔インプラント学会専門医)

(2) 指導歯科医

山田陽一(准教授、(社)日本口腔外科学会認定専門医・指導医、日本口腔インプラント学会専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本再生医療学会再生医療認定医)、大野隆之(助教、(社)日本口腔外科学会認定医、日本再生医療学会再生医療認定医)、古橋明文(助教、(社)日本口腔外科学会認定医)、林富雄(助教、(社)日本口腔外科学会認定医)

(3) 指導補佐歯科医

伊藤邦弘(医員助教、(社)日本口腔外科学会認定医)、齋藤拓実(医員助教、(社)日本口腔外科学会認定医)、山本康博(医員助教、(社)日本口腔外科学会認定医)、柘植祥弘(専修医、(社)日本口腔外科学会認定医)、山中洋介(専修医)

3 募集定員・募集方法及び試験

(1) 定員 3名

(2) 方法 歯科医師臨床研修マッチング協議会が実施する歯科医師臨床研修マッチングにより公募する。ただし、マッチング終了後に定数に空きがある場合は別途募集を行う。

(3) 試験 筆記試験(YG性格検査とクレペリン検査)、面接試験

4 処遇

(1) 手当 : 1年目 1,319円/時(221,400円/月)

2年目 1,371円/時 (230,320円/月)

※ 別途賞与を支給

(2) 社会保険：健康保険・年金は日本私立学校振興・共済事業団に加入，労災保険及び雇用保険適用

(3) 勤務時間：勤務時間，勤務時間の割り振り，休憩時間，育児時間，勤務を要しない日，時間外勤務等については職員の例による。

(4) 出勤：出勤・欠勤・遅刻・早退・外出・年次有給休暇・特別休暇・病気休暇・職免休暇・休暇等の届出については職員の例による。

(5) 休日：土曜日，日曜日，祝日，年末・年始（12/29～1/3）

(6) 休暇：年次有給休暇 12日～17日

リフレッシュ休暇 5日～6日

特別休暇 結婚，慶弔など（最高10日）

病気休暇 最長1ヶ月

職免休暇 学会出張等

5 当直

麻酔科及び救命救急科での当直あり。歯科口腔外科での副宅直も必須。

6 その他

宿舎：なし

食堂：院内食堂（有料）あり

健康管理：定期健康診断の実施（年2回），風疹・麻疹・水痘・ムンプスの抗体確認検査とワクチン接種、B型肝炎抗原抗体確認検査とワクチン接種等

賠償責任保険：歯科医師賠償責任保険：各自加入のこと。ただし有事の際は当院加入の保険を適用する。

院内研修会：CPC，早朝カンファレンス，各科主催の症例検討会など

学会：参加自由（費用は個人負担）

白紙：白衣及びKC白衣を各3枚無償貸与（クリーニング代は病院負担）

7 研修内容と到達目標

(1) 研修指導体制

歯科口腔外科臨床研修は、指導責任者、指導歯科医が指導に従事する。指導補佐歯科医は指導歯科医を援助する。研修歯科医は入院診療および外来診療において指導歯科医のもと全身的病態との関連や治療時の必要知識を修得し、治療方針の立案および治療の実地を行う。

また、休日診療、当直および宅直において、当番医の指導のもと副直医として時間外診療を研修する。臨床経験症例はその都度指導責任者、指導歯科医（単純な抜歯や歯科治療は指導補佐医も可）に診療内容のチェックを受けカルテにサインを受けるとともに補綴、保存症例の担当になった場合には症例経験用紙に記入する。さらに各研修項目の到達評価欄に例数を記入し症例経験用紙とともに1ヶ月毎に指導歯科医に提出する。指導歯科医は適時、研修に関する相談を受け、臨床指導、口頭試問、助言を行い、必要時にはレポートのテーマを呈示するとともに1ヶ月間の評価をし、次の1ヶ月間の研修に関する助言、指導を行う。

なお、当科では2年の研修期間であることから1年次の到達目標は努力目標であり、最終的には2年次終了までに到達することを目標とする。

（2）一般歯科口腔外科基礎養成コース

歯科口腔外科での研修実施

- ① 外来診療（毎日）
- ② 病棟診療（毎日）
- ③ 手術（木曜日・金曜日）
- ④ 宅・当直（当番医のもと副宅直医として従事）
- ⑤ 教授回診
- ⑥ 抄読会・症例検討会（木曜日）
- ⑦ 病棟カンファランス（月～金曜日：朝）
- ⑧ 外来小手術（月～金曜日）
- ⑨ 講義、講演、学会
- ⑩ 臨床医学セミナー
- ⑪ 自己学習・自己啓発

研修協力施設での研修は以下の3施設で、1年目に1ヶ月、2年目に2週間の期間を行う。

各研修協力施設の特徴

いけもり矯正歯科 指導責任者：歯科矯正専門医 研修内容：一般矯正、術前矯正

小島歯科医院 指導責任者：口腔外科出身
医療法人十種会丸子歯科 指導責任者：補綴出身

研修内容：歯科治療全般、障害者治療、小児歯科、学会活動
研修内容：歯科治療全般、矯正、インプラント、小児歯科、予防歯科

(3) 研修の具体的な内容

- ① 適切な問診による病歴聴取
- ② カルテ記載
- ③ 各種器具，機械の取り扱いの修得
- ④ 一般歯科疾患の診断，診療計画の作成および説明と同意、治療
- ⑤ 有病者歯科診療の注意点の修得と診断及び治療方針の立案と説明と同意、治療
- ⑥ 口腔外科疾患の診断,診療計画の作成
- ⑦ 外来小手術の実施（普通抜歯、簡単な埋伏抜歯、膿瘍切開（数歯のわたる大きさまで）、小帯異常、小嚢胞、歯牙脱臼、歯槽骨骨折は説明と同意、治療、経過観察まで）
- ⑧ 単純 X 線，断層 X 線写真，MRI 写真の読影
- ⑨ 一般血液検査の解釈
- ⑩ 協力歯科医院での総合的歯科診療や矯正治療を見学・体験する。

(4) 到達目標：

- ① **G I O（一般目標）⇒各ユニット**
- ② **各ユニット下に S B O s（行動目標）が設定される。**
S B O s の行動目標群には次の 3 領域がある。⇒ 知識 技能 態度・習慣
- ③ **各々の S B O s（行動目標）に対して学習方略（L S）がある。**
L S 種類：(1) 印刷物、(2) 黒板、(3) スライド、(4) テレビ、(5) 模型、(6) シミュレーター、(7) 患者
知識：(1) ～ (7)
技能：(1) (2) (4) ～ (7)
態度・習慣：(3) (4) (7)
- ④ **S B O s に対して評価（E V）を行う。**

① 論述テスト ② 口頭試験 ③ 客観テスト ④ シミュレーションテスト（1筆記型、2標準模擬患者、3模型、4コンピューター） ⑤ 実地試験 ⑥ 観察記録 ⑦ レポート・ポートフォリオ

知識：①～④－1, 2, 4 ⑤～⑦

技能：④－2, 3 ⑤⑥

態度・習慣：④－2, 3, 4 ⑤⑥⑦

I：臨床基礎

G I O：医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。

S B O s：行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 病歴聴取・記録が的確に行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
③ インフォームド・コンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
④ 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑤ 相手に好印象を与えている。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O：チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。

S B O s：行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
② 上級・同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
③ 医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
④ 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑤ 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑥ 病診連携が行える。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O：問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

S B O s : 行動目標

- ① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBMが実践できる）。
- ② 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
- ④ 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画する。

S B O s : 行動目標

- ① 医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。
- ② 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- ③ 院内感染対策（Standard Precautionsを含む）を理解・実施できる。
- ④ クリニカルパスを施行できる。

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 症例提示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例提示と意見交換を行う。

S B O s : 行動目標

- ① 症例提示と討論ができる。
- ② 臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集会に参加、発表（1演題以上）する。

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する。

S B O s : 行動目標

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
----	----------	-----------

① 診療計画（診断，治療，患者・家族への説明を含む；POSシステム）、診療概要録、手術記録を作成できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
② 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
③ 入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
④ QOL (Quality of Life) を考慮にいたれた総合的な管理計画（リハビリテーション，社会復帰，在宅医療，介護を含む）へ参画する。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し，社会に貢献する。

S B O s : 行動目標

- ① 保健医療法規・制度を理解し，適切に行動できる。
- ② 医療保険，公費負担医療を理解し，適切に診療できる。
- ③ 医の倫理，生命倫理について理解し，適切に行動できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

II : 歯科治療

G I O : 基本的な歯科疾患の診察法

歯科において基本的な診察法・検査・手技・治療法を経験する。

S B O s : 行動目標

- ① 歯牙、口腔内（歯，歯周組織、舌，口底，頬粘膜，硬口蓋，軟口蓋等）所見をとり記載する。
- ② 特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。
- ③ 歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。
- ④ 歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。
- ⑤ 歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 基本的な歯科臨床検査

口腔，歯牙の病態と臨床経過を把握し，また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要

な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。

S B O s : 行動目標

- ① 歯科用 X 線検査と読影ができる。
- ② パノラマ X 線検査の読影ができる。
- ③ 電気歯髄診断、E M R ができる。
- ④ 温冷痛検査ができる。
- ⑤ 歯周検査ができる。
- ⑥ スタディモデルの診査ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 歯科基本治療診断

歯科治療において基本的な診断能力を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 保存修復治療適応の診断ができる。
- ② 歯周治療適応の診断ができる。
- ③ 歯内治療適応の診断ができる。
- ④ 補綴治療適応の診断ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 歯科基本治療計画

歯科治療において基本的な治療計画能力を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 保存修復治療計画の立案ができる。
- ② 歯周治療計画の立案ができる。
- ③ 歯内治療計画の立案ができる。
- ④ 補綴治療計画の立案ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 歯科基本治療

歯科治療において基本的な治療を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 保存修復治療ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 歯周治療ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 歯内治療ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
④ 補綴治療ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑤ 歯科治療に必要な麻酔が施行できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施

1 口腔単位で総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 1 口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② 1 口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
③ 1 口腔単位で総合的な歯科治療が行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施 . . . 重点項目

基礎疾患に留意した総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② 基礎疾患の問題点を視野にいたした総合的な歯科診療計画が立案できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
③ 基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

Ⅲ : 基礎口腔外科

G I O : 口腔外科基本診察法

基本的な口腔外科疾患および身体の診察法を修得する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 口腔内および口腔外科領域の観察ができ、記載ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

② 口腔外科疾患の診断手順が理解でき実践できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 口腔外科疾患や手技に関連した局所解剖を理解している。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
④ 全身観察（頸部リンパ節の触診を含む）ができ、問題点の記載ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 口腔外科基本臨床検査

口腔、口腔外科領域の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 口腔外科疾患に必要な歯科用 X 線検査を選択・実行できる。 (単純 X 線検査：セファロ、シュラー、P-A、ウォーターズ、オルビトラムス X 線検査)	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② パノラマ X 線検査で口腔外科疾患を読影できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
③ X 線 C T 検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
④ M R I 検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑤ 細菌学的検査、薬剤感受性検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑥ 細胞診（擦過。穿刺）、病理組織検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑦ 血算、白血球分画がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑧ 血液型判定、交叉適合試験がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑨ 心電図がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑩ 動脈血ガス分析がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑪ 血液生化学検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑫ 肺機能検査（スパイロメトリー）がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑬ 一般尿検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑭ G a シンチグラム、骨シンチグラムがオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 基本的な口腔外科疾患) の診断と治療計画

普通抜歯、簡単な埋伏、数歯までの炎症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎骨骨折、小嚢胞、顎関節脱臼、顎関節症の診断から治療まで修得する。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 診断の手順から確定診断まで総合的に実施ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

② 治療計画の立案ができ、手術に関する説明と同意が行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 治療法（必要器具、手技、投薬等）を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
④ 治療における合併症を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑤ 合併症に対する対策を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 口腔外科基本手技

口腔外科基本の手技を修得する。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 下顎孔伝達麻酔が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 普通抜歯, 簡単な埋伏抜歯が実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
④ 炎症の切開排膿処置が実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑤ 顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑥ 口腔内外の縫合法を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑦ 各種止血法を実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑧ 注射（皮内, 皮下, 筋肉, 点滴, 静脈確保）が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑨ 採血が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑩ 合併症の対策が施行できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑪ 小嚢胞の手術（粘液嚢胞を含む）ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 基本的な口腔外科疾患の管理法

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
① 基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察とそれらの主観的客観的評価が適切にできる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 全身の管理、口腔機能の改善, 回復（嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等）ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 薬物の作用, 副作用, 相互作用について理解し, 薬物療法（抗菌薬, 解熱剤）ができる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 多くの口腔外科疾患を経験する。

多くの口腔外科疾患の診断、治療、予後観察までを継続的に臨床現場で体験する。

S B O s : 行動目標

① 見学例、実施経験例を記載する。

(外来口腔外科疾患症例、入院口腔外科疾患；入院管理や入院手術補佐例等)

症例カードに月毎に記載(別紙に記入：記入法は口腔外科専門医症例報告用

の記入例を参照すること)

コメントと評価(a～d)は指導医が行う)

分類 研修方略(LS) 形成的評価(EV)

技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

IV : 麻酔

G I O : 歯科麻酔 ⇒ 医科麻酔 ⇒ 救急救命治療を経験する。

歯科麻酔(20例以上)研修後に3カ月の医科麻酔研修、1カ月の救急救命研修(当直研修あり)を行う。

⇒ 麻酔研修は愛知医科大学麻酔科研修カリキュラムに沿って行う。救急救命研修は救急救命科研修カリキュラムに沿って行う。

V : 形成外科研修

麻酔研修、救急救命研修後に形成外科での研修を行う。形成外科での研修は創傷の診断から治療、形成術の基本、縫合について学ぶ。

⇒ 研修は形成外科研修カリキュラムに沿って行う。

VI : 自己研鑽

G I O : 自分自身で一般目標を設定し実行する。

苦手克服のため、興味のある分野、実行したいこと等について自身で一般目標、行動目標を設定し実行する。但し形成評価は指導医が行う。

S B O s : 行動目標

①

②

分類 研修方略(LS) 形成的評価(EV)

Ⅶ：インプラント・顎関節症・無呼吸症候群

以下については当科での頻度が高いので2年次においてプログラムを施行する。

G I O：インプラントについて理解する。

当科での高頻度治療であるインプラントについて理解する。

S B O s：行動目標

- ① 基本概念と基本的な適応症を理解している。
- ② 診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。
- ③ 模型実習（手術手技、半調節性咬合器の使用法）を行う。
- ④ 手術の補助ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O：顎関節症について理解する。

当科への受診頻度が高い顎関節症の臨床（基本）を理解する。

S B O s：行動目標

- ① 症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。
- ② MRIの撮影条件の指示と読影ができる。
- ③ スプリントの制作・調整実習を行う。
- ④ スプリント療法を理解し実践できる。
- ⑤ 関節洗浄療法について理解している。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O：無呼吸症候群について理解する。

本院では睡眠センターを中心にチームアプローチを行っている。無呼吸症候群について理解し、当科の役割を理解する。

S B O s：行動目標

- ① 病態と検査法、治療法の基礎を理解している。
- ② 病態を把握できる。
- ③ 他科へのコンサルトができる。
- ④ PMAの作成手順と方法を理解し作成できる。
- ⑤ 治療効果を評価できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

1. 外来傷病名別統計(／月)																																	
区分	口腔外科的疾患													保存・修復疾患			補綴疾患		その他		合計												
傷病名	良性腫瘍	悪性腫瘍	外傷	炎症	嚢胞	先天異常・奇形	顎変形症	顎関節疾患	神経性疾患	口腔粘膜疾患	血液疾患	唾液腺疾患	埋伏歯疾患	その他	小計	う歯	歯内疾患	歯周疾患	その他	有床義歯		冠・ブリッジ	インプラント	歯列不正	その他	小計							
総数																																	
2. 入院患者傷病名別統計(／月)																																	
区分	腫瘍			外傷			炎症		嚢胞			先天異常・奇形			顎変形症			神経疾患			唾液腺疾患		その他			合計							
傷病名	良性・歯原性	良性・非歯原性	悪性・癌腫	悪性・その他	顎顔面骨折	歯・歯槽骨	軟組織	歯原性・顎骨炎	非歯原性	歯原性	非歯原性	軟組織・その他	唇・顎裂	口蓋裂	唇顎口蓋裂	その他	下顎前突症	上顎前突症	開咬・その他	顎関節疾患	神経痛	神経麻痺	その他	口腔粘膜疾患	血液疾患		唾液腺疾患	唾液腺炎・唾石症	唾液腺腫瘍	多発性う歯	埋伏歯・智歯	インプラント	その他
総数																																	

保存・補綴 担当症例用紙

No.

研修医氏名：

既往歴：

現症から：

診断：

問題リスト

治療方針と患者への治療方針の説明内容：

治療内容

日付	治療内容	説明内容

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

I 臨床基礎

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
医療面接			各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、問診、診療録作成の際にサポート等を行う。	医療面接を経験した場合を1症例とする。	目標達成の基準として、合計30例以上経験していることが必要。ただし、①から⑤までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。					
【行動目標】	1)問診 2)診療録記載 3)セミナー参加	①～⑤ 各5例以上、 合計30症例			
①病歴聴取・記録が的確に行える。					
②患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。					
③インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。					
④守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。					
⑤相手に好印象を与えている。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
チーム医療	臨床実地研修全般(外来歯科処置、病棟処置)	①～⑥ 各5例以上、合計30症例	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、外来、病棟業務の際にサポート等を行う。	医療チーム構成員と協調し、治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。	目標達成の基準として、合計30例以上経験していることが必要。ただし、①から⑥までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。					
【行動目標】					
①指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。					
②上級・同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。					
③医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。					
④患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。					
⑤関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。					
⑥病診連携が行える。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	修了判定の 評価基準
問題対応能力	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; height: 100%; width: 100%;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 50%; height: 100%;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 50%; height: 100%;"></div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; height: 100%; width: 100%;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 50%; height: 100%;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 50%; height: 100%;"></div> </div>	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、症例検討会、レポート作成の際にサポート等を行う。	レポートは指導歯科医が4段階評価(上位からA,B,C,D判定)を行い、目標達成の基準として、評価がC以上のレポートを5例以上提出することが必要。
【一般目標】				
患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。				
【行動目標】				
① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる(EBMが実践できる)。	1)文献検索 2)レポートの作成 3)症例検討会 4)グループ討論	5 症例 (レポート)		
② 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。				
③ 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。				
④ 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
安全管理			各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、研修期間中の安全管理についてのサポート等を行う。	安全管理を要した症例を経験した場合に1症例とする。	目標達成の基準として、合計50例以上経験していることが必要。 ただし、①から⑤までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画する。					
【行動目標】					
①医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。	1)セミナー参加 2)臨床実地研修全般(外来歯科処置、病棟処置)	50 症例			
②医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。					
③院内感染対策(Standard Precautionsを含む)を理解・実施できる。					
④クリニカルパスを施行できる。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	修了判定の評価基準
症例提示	/	/	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート、学会発表準備の際にサポート等を行う。	症例検討会での発表および、歯科口腔外科関連学会での学会発表(1編以上)が必要。
【一般目標】				
チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な症例提示と意見交換を行う。				
【行動目標】	文献検索、レポートの作成、グループ討論、症例検討会、学会参加	1症例 (学会発表)		
①症例提示と討論ができる。				
②臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集会に参加、発表する。				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
診療計画	1)診療録作成 2)症例検討会 3)入院症例	①～④ 各1症例以上、合計5症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	診療計画に関わり、治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)例： 問診→入院→手術→消毒・経過→退院→経過	目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただし、①から⑤までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する。					
【行動目標】					
①診療計画(診断, 治療, 患者・家族への説明を含む; POSシステム)、診療概要録、手術記録を作成できる。					
②診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。					
③入退院の適応を判断できる(デイスージャリー症例を含む)。					
④ QOL (Quality of Life)を考慮にいれた総合的な管理計画 (リハビリテーション, 社会復帰, 在宅医療, 介護を含む)へ参画する。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	修了判定の評価基準
医療の社会性	/	/	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。	レポートは指導歯科医が4段階評価(上位からA,B,C,D判定)を行い、目標達成の基準として、評価がC以上のレポートを1例以上提出することが必要。
【一般目標】				
医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する。				
【行動目標】	1)セミナーへ参加 2)文献検索 3)レポートの作成 4)グループ討論	1 症例 (レポート)		
①保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。				
②医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。				
③医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

Ⅱ：歯科治療

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
基本的な歯科疾患の診察法	/	/	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例①：問診→拔牙→消毒・経過 例②：歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計50例以上経験していることが必要。ただし、①から⑤までの行動目標ごとに最低10例以上を経験していることが必要。指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
歯科において基本的な診察法・検査・手技・治療法を経験する。					
【行動目標】					
①歯牙、口腔内(歯、歯周組織、舌、口底、頬粘膜、硬口蓋、軟口蓋等)所見をとり記載する。	1)口腔内診査 2)診療録記載	①～⑤ 各10症例以上、 合計50症例			
②特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。	1)問診 2)診療録記載 3)症例検討会				
③歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。	1)問診 2)診療録記載 3)症例検討会				
④歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。	1)問診 2)診療録記載 3)症例検討会 4)他科コンサルテーション				
⑤歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。	1)口腔内診査 2)診療録記載 3)症例検討会				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
基本的な歯科臨床検査			指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例① : 問診→歯科用X線検査→拔牙→消毒・経過 例② : 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計 50 例以上経験していることが必要。 ただし、①から⑥までの行動目標ごとに最低 5 例以上を経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
口腔、歯牙の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。					
【行動目標】					
① 歯科用X線検査と読影ができる。	歯科用X線検査	①～⑥ 各5症例以上、合計 50 症例			
② パノラマX線検査の読影ができる。	パノラマX線検査				
③ 電気歯髄診断、EMRができる。	EMR				
④ 温冷痛検査ができる。	温冷痛検査				
⑤ 歯周検査ができる。	歯周検査				
⑥ スタディモデルの診査ができる。	スタディモデル				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯科基本治療診断 【一般目標】 歯科治療において基本的な診断能力を修得する。 【行動目標】	1)レジン修復 2)インレー修復 3)その他 1)抜髄処置 2)感染根管処置 3)その他 1)歯科保健指導 2)スケーリング・ルートプレーニング 3)その他 1)歯冠補綴治療 2)部分床義歯治療 3)全部床義歯治療 4)その他	①～④ 各5症例以上、合計20症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例① : 問診→拔牙→消毒・経過 例② : 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計20症例以上経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。 ただし、①から④までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
①保存修復治療適応の診断ができる。					
②歯内治療適応の診断ができる。					
③歯周治療適応の診断ができる。					
④ 補綴治療適応の診断ができる。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導體制	症例数の数え方	評価基準
歯科基本治療計画 【一般目標】 歯科治療において基本的な治療計画能力を修得する。 【行動目標】	1)レジン修復 2)インレー修復 3)その他 1) 歯科保健指導 2)スケーリング・ルートプレーニング 3)その他 1) 抜髄処置 2) 感染根管処置 3)その他 1) 歯冠補綴治療 2)部分床義歯治療 3)全部床義歯治療 4)その他	①～④各5症例以上、合計20症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例① : 問診→抜歯→消毒・経過 例② : 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計20症例以上経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。ただし、①から④までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯科基本治療 【一般目標】 歯科治療において基本的な治療を修得する。 【行動目標】	1)レジン修復 2)インレー修復 3)その他 1)抜髄処置 2)感染根管処置 3)その他 1)歯科保健指導 2)スケーリング・ルートプレーニング 3)その他 1)歯冠補綴治療 2)部分床義歯治療 3)全部床義歯治療 4)その他 1)局所麻酔 2)伝達麻酔	①～⑤ 各5症例以上、合計20症例	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例① : 問診→抜歯→消毒・経過 例② : 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計30例以上経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。 ただし、①から⑤までの行動目標ごとに最低5例以上を経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
①保存修復治療ができる。					
②歯内治療ができる。					
③歯周治療ができる。					
④補綴治療ができる。					
⑤歯科治療に必要な麻酔が施行できる。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施。			指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例 問診・精査→診断・治療計画→拔牙→補綴処置→経過観察	目標達成の基準として、合計20症例以上経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
1口腔単位で総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。					
【行動目標】					
①1口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。	1)症例検討会 2)歯科処置全般	①～③ 合計 20 症例			
②1口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。					
③1口腔単位で総合的な歯科治療が行える。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施			指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	基礎疾患への留意を要する治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例① : 問診→拔牙→消毒・経過 例② : 歯周病検査→スケーリング・ルートプレーニング→経過	目標達成の基準として、合計10症例以上経験していることが必要。 実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
基礎疾患に留意した総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。					
【行動目標】					
①基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。	1)セミナーへ参加 2)文献検索 3)レポートの作成 4)グループ討論 5)有病者歯科	①～③ 合計10症例			
②基礎疾患の問題点を視野にいれた総合的な歯科診療計画が立案できる。					
③基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
口腔外科基本臨床検査			指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	口腔外科領域の疾患に対し、臨床検査を経験した場合を1症例として数える。	目標達成の基準として、合計50例以上経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
口腔、口腔外科領域の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。					
【行動目標】					
①口腔外科疾患に必要な歯科用X線検査を選択・実行できる。(単純X線検査:セファロ、シュラー、P-A、ウオーターズ、オルビトラムスX線検査)	1)単純X線検査	①～⑭ 合計50 症例			
②パノラマX線検査で口腔外科疾患を読影できる。	1)パノラマX線検査				
③X線CT検査がオーダーでき所見を理解できる。	1)X線CT検査				
④MRI検査がオーダーでき所見を理解できる。	1)MRI検査				
⑤細菌学的検査、薬剤感受性検査がオーダーでき所見を理解できる。	細菌学的検査、薬剤感受性検査				
⑥細胞診(擦過。穿刺)、病理組織検査がオーダーでき所見を理	細胞診(擦過。穿刺)、病理組織検査				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

解できる。				
⑦血算, 白血球分画がオーダーでき所見を理解できる。	血算, 白血球分画			
⑧血液型判定, 交叉適合試験がオーダーでき所見を理解できる。	血液型判定, 交叉適合試験			
⑨心電図がオーダーでき所見を理解できる。	心電図			
⑩動脈血ガス分析がオーダーでき所見を理解できる。	動脈血ガス分析			
⑪血液生化学検査がオーダーでき所見を理解できる。	血液生化学検査			
⑫肺機能検査(スパイロメリー)がオーダーでき所見を理解できる。	肺機能検査(スパイロメリー)			
⑬一般尿検査がオーダーでき所見を理解できる。	一般尿検査			
⑭Gaシンチグラム、骨シンチグラムがオーダーでき所見を理解できる。	Gaシンチグラム、骨シンチグラム			

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な 症例数	研修歯科医の 指導体制	修了判定の 評価基準
基本的な口腔外科疾患の 診断と治療計画			各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。	レポートは指導歯科医が4段階評価(上位からA,B,C,D判定)を行い、目標達成の基準として、評価がC以上のレポートを5例以上提出することが必要。
【一般目標】				
普通抜歯、簡単な埋伏、数歯までの炎症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎骨骨折、小嚢胞、顎関節脱臼、顎関節症の診断から治療まで修得する。				
【行動目標】				
①診断の手順から確定診断まで総合的に実施ができる。	1)セミナーへ参加 2)文献検索 3)レポートの作成 4)グループ討論	5症例 (レポート)		
②治療計画の立案ができ、手術に関する説明と同意が行える。				
③治療法(必要器具、手技、投薬等)を理解している。				
④治療における合併症を理解している。				
⑤合併症に対する対策を理解している。				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
口腔外科基本手技	/	/	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。(症例配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例： 問診→抜歯→消毒・経過	目標達成の基準として、合計15例以上経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
口腔外科基本的手技を修得する。					
【行動目標】					
①口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。	局所浸潤麻酔	①～⑪ 合計 15 症例			
②下顎孔伝達麻酔が実施できる。	下顎孔伝達麻酔				
③普通抜歯,簡単な埋伏抜歯が実施(器具準備を含む)できる。	1)普通抜歯 2)難抜歯 3)埋伏抜歯				
④炎症の切開排膿処置が実施(器具準備を含む)できる。	1)口腔内消炎処置 2)口腔外消炎処置				
⑤顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施(器具準備を含む)できる。	1)顎間固定術 2)歯牙固定術 3)脱臼整復術				
⑥口腔内外の縫合法を実施(器具準備を含む)できる。	創傷処置				
⑦各種止血法を実施できる。	止血処置				
⑧注射(皮内,皮下,筋肉,点滴,静脈確保)が実施できる。	1)皮内注射 2)皮下注射 3)筋肉注射 4)静脈内注射 5)静脈内留置針確保				
⑨採血が実施できる。	採血処置				
⑩合併症の対策が施行できる。	合併症対策				
⑪小嚢胞の手術(粘液嚢胞を含む)ができる。	1)粘液嚢胞 2)歯根嚢胞 3)顎骨嚢胞 4)その他				

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<p>基本的な口腔外科疾患の管理法</p> <p>【一般目標】</p> <p>基本的な口腔外科疾患の管理法を修得する。</p> <p>【行動目標】</p>	<p>1)セミナーへ参加</p> <p>2)文献検索</p> <p>3)レポートの作成</p> <p>4)症例検討会</p>	<p>①～③</p> <p>合計5症例 (症例検討会)</p>	<p>各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、症例検討会発表資料作成の際にサポート等を行う。</p>	<p>治療の流れを連続して経験し、症例検討会において管理法を発表した場合を1症例として数える。</p>	<p>目標達成の基準として、合計5例以上の症例検討会発表を経験していることが必要。</p> <p>指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。</p>
<p>①基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察と、それらの主観的客観的評価が適切にできる。</p>					
<p>②全身の管理、口腔機能の改善、回復(嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等)ができる。</p>					
<p>③薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物療法(抗菌薬、解熱剤)ができる。</p>					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
多くの口腔外科疾患を経験する	/	/	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型)	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例：問診→抜歯→消毒・経過	目標達成の基準として、合計1例以上経験していることが必要。指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
多くの口腔外科疾患の診断、治療、予後観察までを継続的に臨床現場で体験する。					
【行動目標】	口腔外科疾患全般	1 症例以上			
①見学例、実施経験例を記載する。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

インプラント・顎関節症・無呼吸症候群

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導體制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
インプラントについて理解する			各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成、模型実習の際にサポート等を行う。	インプラント治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例：問診→画像診断→1次手術→2次手術→補綴→経過	目標達成の基準として、合計1例以上経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】 当科での高頻度治療であるインプラントについて理解する。					
【行動目標】					
①基本概念と基本的な適応症を理解している。	1)インプラント手術 補助 2)レポート 3)模型実習 4)セミナー参加	①～④ 合計1症例(手術補助)			
②診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。					
③模型実習(手術手技、半調節性咬合器の使用法)を行う。					
④手術の補助ができる。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
顎関節症について理解する	/	/	指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成、症例検討会、プリント作成の際にサポート等を行う。	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例： 問診→スプリント療法→経過	目標達成の基準として、合計1例以上経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
当科への受診頻度が高い顎関節症の臨床(基本)を理解する。					
【行動目標】					
①症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。	1)セミナーへ参加 2)文献検索 3)レポートの作成 4)症例検討会 5)顎関節症症例	①～⑤ 合計1症例			
②MRIの撮影条件の指示と読影ができる。					
③スプリントの制作・調整実習を行う。					
④スプリント療法を理解し実践できる。					
⑤関節洗浄療法について理解している。					

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
無呼吸症候群について理解する			指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。(患者配当型) 各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成、症例検討会、PMA 作成の際にサポート等を行う。	無呼吸症候群の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例： 問診→PMA作成→経過	目標達成の基準として、合計1症例以上経験していることが必要。 指導歯科医責任者が評価を行う。評価は臨床研修項目についての実施もしくは理解度をもって判定する。
【一般目標】					
本院では睡眠センターを中心にチームアプローチを行っている。無呼吸症候群について理解し、当科の役割を理解する。					
【行動目標】					
①病態と検査法、治療法の基礎を理解している。	1)セミナーへ参加	①～⑤ 合計1症例			
②病態を把握できる	2)文献検索				
③他科へのコンサルトができる。	3)レポートの作成				
④PMAの作成手順と方法を理解し作成できる。	4)症例検討会				
⑤治療効果を評価できる。	5)無呼吸症候群症例				